

## ベストクラス選定理由書

作成者：E 班（掛川 淳一，宮本 悠平，伊藤 萌，東 豊，中野 友子）

科目名称：教員のための人権教育の理論と方法 B (担当教員名：山内 敏男，和田 幸司，岩本 剛)	
課程：学部・大学院（修士・ <b>専門職</b> ）	開講時期：前期・ <b>後期</b>
授業形態：講義・演習	授業規模：43 人
インタビュー対象教員名：山内 敏男 (実施日時：8月9日(水)9:00～9:30；実施場所：総合研究棟3階大会議室)	
インタビュー対象受講者名：中澤 怜子（授業実践開発コース） (実施日時：8月9日(水)9:45～10:15；実施場所：総合研究棟3階大会議室)	
<h3>選定理由</h3> <p>インタビューに基づき、本授業の特徴を以下のようにまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権というデリケートなテーマに対し、実践事例の改善案をグループで検討させる中で、個別性、複雑性をもつ本授業のテーマに対し、多面的、多角的なアプローチと捉えの多様性を許容し、ストレート院生の探索を導くようにしている。</li> <li>2. 教員から受講生、受講生から受講生自身へのフィードバックを重視している。                      受講生に毎回書かせる「シャトルシート」に基づき、教員から受講生へのフィードバックを行い、また一方で、そこに書かれるニーズ、思い・考えに基づき、ダイナミックに以後の授業を変えていく。また、フィードバックすべき内容がデリケートなものとなった場合には、個に返すようにしており、細やかな配慮が行われている。また同和・人権教育における端境期に学校教育を受けた受講生に対し、理論（歴史的背景、社会制度の見方のパラダイムシフト等）と実践の往還に基づき、人権教育の視野を広げ、自身の受けてきた人権教育について振り返り、また、現代的な人権教育に対する捉えについての深い理解を導いている。また現場における人権教育として機能させるべく、エンパワーメントの視点を導入し、学級経営に関連した、担任としての視点、対人関係、子供との接し方等を交えることにより、実践的な授業となっている。以上に基づき、ストレート院生の受講生に対し人権教育の具体的イメージの形成を可能としている。</li> <li>3. 授業担当教員間の連絡と連携が十分になされている。                      複数教員での授業担当ながら、頻繁に打ち合わせがなされている。また、各回においては主担当となる教員があるものの、全教員が担当できる全ての授業に参加している。</li> <li>4. 現職院生を対象とした A クラスの授業についても紹介を行い、現職教員の捉えについても共有を行っている。</li> </ol> <p>以上より、現場経験のないストレート院生である受講生に対し、細やかな配慮と丁寧な対応がなされており、結果として、受講生の本授業への参画度が高まり、本授業に対するポジティブな捉えに結びついているものと考えられる。授業評価における点数の高さ（平均 4.6）、および自由記述の内容、およびインタビュー内容を勘案し、本授業はベストクラスとして適切であると考えます。</p>	